



介護保険レンタルのシーティングに 配慮された車いす

東京都立保健科学大学 木之瀬 隆

はじめに

介護保険で扱われる福祉用具の中で車いすはレンタル品になった。レディメイドの普通型車いすと介助型車いすが基本になっているが、モジュラー車いすや車いす専用クッションがレンタルされることになった。シーティングに配慮されたモジュラー車いすの導入により、対象者の自立度を高め、介護者の負担を軽減できる。今回、介護保険でレンタルされる予定のモジュラー車いすと車いす専用クッションについて紹介する。また、レンタル目的のひとつであるリメイク、リサイクルに配慮された製品が地球環境レベルの視点での扱いが求められる。

1. 車いすの選択方法

車いすの選択は、①対象者の身体寸法、②移乗方法、③座る姿勢、④操作能力、また、⑤障害程度（要介護度等）に配慮されたものを選ぶ必要がある。高齢者の場合は一般に上記の選択基準は無視され、一律、既製品の車いすが使われていた。その理由は、選択側の介護者のニーズで、軽く、小さく、安価な車いすが選定されてきたからである。実際使用する高齢者にとっては座りにくく自立性の低下を招く。以前より、この紙面で何度も椅子としてのスリングシートの問題点は指摘してきたが、一般に認識されているとはいえない。介護保険で扱われるモジュラー車いすは、レンタル品であるためシミュレーション（試用）することができ、上記①～⑤の項目に適合しなければ異なる品目に変更できる。

2. 介護保険でレンタルされる 簡易モジュラー車いす

モジュラー（modular）車いすとは車いすの各部品を単元化しておき、これらの部品を目的によって選択、調節し組み立てられるものをいう⁽¹⁾。簡易モジュラー車いすとは、モジュラー車いすの特徴としてフットレストのスイングアウェイ、アームレストの簡易着脱、肘掛け、座面の高さ調節等の一部調整機能を有する車いすを指す。ここでは介護保険福祉用具ガイドブック、レンタル品カタログ等にある簡易モジュラー車いす、モジュラー車いすを紹介する。

①簡易モジュラー車いす J-Wing22

（日本化薬）

フットレストのスイングアウト、アームレストのはねあげ、座面の高さ調節が一部可能。介護者用のキャリパーブレーキ装備。



②簡易モジュラー車いす REVO(レボ)

（原田産業）

フットレスト、アームレストの取り外しや高さ調節が可能。



③簡易モジュラー車いす 楽歩

（ファスニング21）

フットレスト、アームレストの取り外しや高さ調節が可能。自走用として車軸の位置調整可能。座面の簡易ティルト・リクライニング機能。ハイバックの背を付けることで重度者向けにもなる。



システム(その4)

④ モジュラー車いす NAIS

(松下電工エイジフリー)
フットレスト、アーム
レストの取り外し。座
面・背もたれの高さ調
節。片麻痺の足こぎ走
行にも対応。



⑤ モジュラー車いす ネットイーⅢ

(原田産業)

座位保持車いすで重度障害者まで対応する。ティルト・リクライニング機能、フットレストのエレベーション機能、クッション、ヘッドレストの選択を含めた身体寸法への適合機能を持つ。



3. 介護保険でレンタルされる 車いす専用クッション

スリングシートの子車いすを使う場合は座シートの問題点を解決するために必ず車いす専用クッションを用いなければならない。用いない場合は、車いす座位姿勢の不安定、臀部・腰部の痛み、褥そう、自立能力の低下等の問題が必ず発生する。車いす座位姿勢の対応は前回の紙面で解説したのでここでは割愛し、車いす上での褥そう対応について説明を加える。ドーナツ型円座、ビーズクッション、座布団はスリングシート上での座位姿勢の悪化を助長し、車いす座位での坐骨結節部、仙骨部の褥そう予防機能はまったくないといえる。簡単な車いす専用クッションの選択方法を図6に示す(2)。座位姿勢の安定性を高めるためには、臀部の形状に近い立体成型のウレタンクッショ

褥そうに注意!

褥そうの発生原因は、
1.身体にあたる圧力、2.圧力がかかる時間、3.あたっている身体組織の耐久性、です。

寝ていて起こることは、座っても起こります。

まず、医師や看護の方に看てもらいましょう。

その上で、クッションの選択には

すでに褥そうができていますか？
おしりを高かったり、赤くなったりしますか？
身体を動かすことができませんか？

はい

クッションは厚めの減圧ができるもの

いいえ

5 cm程度の厚さのクッションは必要

円座、ビーズクッション、座布団を褥そう防止のためのクッションとして使うべきではありません。

また、クッションの選択にはアームレストやフットレストの高さに注意しましょう。



図6

ンを用いる。また、褥そう発生の可能性がある場合は褥そう予防機能を持つクッションを用いる。

4. 介護保険レンタル車いすの課題

今までの普通型車いすはフットレストの高さ調節のみであった。モジュラー車いすはカスタムメイドで身体寸法の適合範囲やシーティングに配慮されている。しかし、モジュラー車いすは誰が選定適合するかという問題が残る。一応、福祉用具の選定は福祉用具プランナー、福祉用具専門相談員等が行うとなっているが、適合を要する福祉用具までの教育はされていない。次に、北欧ではテクニカルエイドセンターでセラピストを中心とした職種で福祉用具の選択・適合を行うがわが国では確立されていない。その他、身体障害者手帳を持つ高齢者と介護保険での車いす給付等の役割分担も不明確である。問題は挙げればきりが無いが、介護保険の要介護者にとってモジュラー車いすが適するのは明らかであり、中間ユーザーといわれる皆さんがモジュラー車いすの選択・適合に関する扱いが今後のカギとなる。

<文献>

- (1)木之瀬隆：モジュラー車いすとシーティングシステム、作業療法ジャーナル 33：335-340, 1999.4
- (2)廣瀬秀行、木之瀬隆、浅海奈津美、清宮清美、佐藤真理子：車「いす」について考えてみましょう、(財)テクノエイド協会、1999.3